

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>・フロアに理念を掲示している。</p> <p>・共有し実践につなげられているかどうかは、定期的に職員間での確認の場を持つ必要がある。</p>	<p>事業所理念は前年度中に管理者と職員と一緒に検討し、作成しました。理念はいつでも確認できるようにフロアに掲示しており、日々の業務やミーティングを通して理念の振り返りを行い、共有に努めています。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>・日常的な交流とは言えないが、地域の夏祭り、運動会などのお誘いを頂いており、可能な範囲で参加させて頂いている。年4回季刊誌を発行し回覧して頂いている。数回の避難訓練の見学、参加をして頂いている。</p>	<p>町内に事業所の広報誌を回覧し事業所の内容を知っていただいているほか、地域の夏祭り、運動会等案内を頂いた町内行事には参加しています。また、隣接の老人保健施設に保育園の園児が来てくれたり、中学生の体験学習を受け入れたりと地域との交流を図っています。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>・隣接の老人保健施設主催で、年に数回の地域公開講座や、毎年文化祭(GO郷祭)を開催している。年6回の運営推進会議の実施状況報告の中で、多少ではあるが話題としてあげている。今後、活かすことを意識した取り組みが必要である。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・実施状況を報告した後に意見等を頂いた部分に関しては、サービス向上につなげられるよう努力している。</p>	<p>包括支援センター、町内会長、民生委員、ご家族代表などに参加していただき現状の報告を行っています。運営推進会議で頂いた意見は職員会議で話し合い、取り入れるべき点は取り入れるように努め、サービスの向上に向け取り組んでいます。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>・密に連絡は取れていないが、運営推進会議終了後に実施状況等の会議資料や会議録等を送付させて頂いている。意見や疑問点に関して連絡を頂けるようお願いしている。</p>	<p>運営推進会議には市の担当者の参加はありませんが、地域包括支援センターの職員には運営推進会議に毎回出席していただき、困難事例や相談がある場合は確認をとり対応しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・夜間のみ危険防止のため部屋の窓の施錠をさせて頂いている方が1名ある。全ての職員の正しい理解に向けて、再確認していく必要がある。	危険回避の為、ご家族に相談し同意を得てやむを得ず身体拘束に繋がるケースもありますが、同意書が確認できませんでした。管理者は言葉による拘束も含め、日々のミーティングなどを活用し職員に徹底しています。	身体拘束に至る理由、内容、期間などが分かる身体拘束に関する同意書を用意し、頂けるように対応されることを期待します。
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・全職員で学ぶ機会は持っていない。定期的に学ぶ機会が必要である。虐待の早期発見のため、体調や気持ちの変化、身体上の異変等に気付いた時点で、確認できるよう努めている。	隣接する老人保健施設で行なわれる研修に参加して理解を深めているほか、日々のミーティングなどを活用し職員に都度徹底しています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全職員で学ぶ機会は持っていない。定期的に学ぶ機会を持ち、理解しておくことが必要である。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・必要に応じて説明の機会を持っている。職員間で、契約に関しての再確認をする機会が必要である。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見や要望を頂いた時に職員間で検討している。外部評価を受け、運営に反映させたいと考えている。	面会の際や事業所祭りや忘年会などの行事の際に、職員がご家族からのご意見を確認するようにしています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・月に一度開催の会議や、必要に応じて話し合い、反映させる機会を設けている。	スタッフ会議やカンファレンスの中で職員の意見を聞き、できるだけ反映させています。また、正規職員は半期に1度の評価面接や必要に応じて面接の機会を設け、不安や不満が生じないように対応しています。	今後は正規職員だけでなく、臨時・パート職員にも定期的に面接の機会を設け、意見や提案を率直に聞ける場にしていただけることを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・管理者と情報共有するなどして、就業環境の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・管理者と情報共有したり、研修の機会の確保など、職員を育てるための取り組みをしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・研修会参加の機会の確保や、他施設職員の研修受け入れの承諾など、同業者との交流を通じた向上への取り組みをしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・サービス導入段階と6ヶ月ごとのケアプランカンファレンスの際に確認する機会を設けている。その他その都度必要に応じて本人との関係作りに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・サービス導入段階と6ヶ月ごとのケアプランカンファレンスの際に確認する機会を設けている。その他機会あるごとに家族との関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人の状況や家族と相談しながら、必要な支援が見極められるように努力している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一緒に作業したり、食事やお茶飲み、それらを通じた会話や声掛けをすることで、関係を築くことにつなげている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・一緒に行事に参加して頂いたり、面会時や電話連絡時等に、関係を築く努力をしている。	事業所の広報を送付し状況を知っていただいた上で、ご家族と一緒にどう支援していったらいいのかを考えていくようにしており、一方的な考えを押し付けつけるのではなく共に考え、想いや支援のあり方を確認しています。事業所の祭りやクリスマス会にはご家族へ案内を送り参加して頂いています。	個別のお手紙を作成し、お送りするようにし、より生活の状況をご理解していただき、情報を共有できるように検討されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族との関係の他、馴染みの人や場所の話題も取り入れながらの会話もなされている。	ご自宅や歯医者、理美容への外出支援やお盆の時のお墓参り、買い物などご利用者の要望に応じ、馴染みの関係が継続できるようご家族の協力も得ながら支援しています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・テーブル席が皆さんを見渡すことが出来る配置になっている。作業やレクリエーション等で交流が持てるような支援ができるよう努力している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所された方との関係性の継続はできていない現状である。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・本人に確認したり、家族に本人の以前の暮らし方等を聞くことで意向の把握に努めている。	日々の生活の中からご利用者の思いや意向を把握するように努めており、確認した情報や気付いた点はシートに記入し、計画に反映できるように努めています。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・本人との会話や、家族から話を聞くことで把握することに努めている。	入居前には自宅に訪問し、ご利用者の暮らしぶりや環境を確認しています。また、ご家族からアセスメントを行い、今まで生活されてきた様子や好み等の把握に努めています。半年に1回は見直しの機会を設け、情報の更新も行なっています。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の記録から職員間で情報共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・6ヶ月に一度本人、家族を交えてケアプラン会議を開催している。毎月モニタリングの機会を設けている。必要に応じて担当職員から確認事項について周知している。	居室担当者が毎月モニタリングを行ない、3ヶ月に1度定期的に介護計画の見直しを行なっています。サービス担当者会議には、ご家族の方にも出席して頂きご利用者の意向やご家族の意向を尊重しながら話し合い計画を立てています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個別記録に記入し情報共有や見直しに活かしているが、記録の仕方等について、検討が必要な部分もあり、今後改善につなげて行きたい。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・必要に応じ、可能な範囲で取り組めるように努力している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域資源の把握が不十分であり、豊かな暮らしの支援につなげる努力が必要である。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の意向を確認しながら、適切な支援につなげられるように努力している。	入居前からのかかりつけ医を基本として、受診や、定期的な往診と体調の変化時には必要な支援をいただけるようになっていきます。定期的な受診はご家族にお願いしておりますが、系列病院の受診支援は事業所で行なっています。系列病院の受診の際はご利用者の状態を知って頂く為、職員が同行し、情報提供表を持参し、説明しております。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・体調不調者や、急変者などの対応について、必要に応じて隣接の老人保健施設の看護師に相談している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院の場合は、家族を通して情報交換している。必要に応じて、病院関係者と連絡を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族は、その場にならないと状況が捉えにくいようであるが、必要に応じて話し合いをしながら取り組んでいきたい。	ホームとしての重度化した際の対応を契約時にご家族に説明し同意を得ているほか、状況に応じてご家族に説明を行い方針を共有しています。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・隣接の老人保健施設主体の全体の研修に参加しているが、現状に沿った訓練を実施して行く必要がある。	隣接する老人保健施設での研修に参加し、初期対応について学ぶ機会を設けており、職員の理解を深めています。	グループホームを想定した急変や事故の対応の研修を実施されることを期待します。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年6回の防災訓練計画があり、全職員が経験出来るようにしている。そのうちの数回は地域の方の見学、参加の計画もあり、協力体制を築く努力をしている。	夜間を想定した避難訓練も実施するなど定期的に避難訓練が実施されており、地域の方にも案内し、参加して頂きました。	隣接する老人保健施設に非常用の食品が確保されていることを知らない職員もいました。職員への周知徹底をされることを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・それぞれの職員は努力しているが、定期的に意識の再確認をする機会を設ける必要がある。	個人情報保護については法人で研修を行っており、ご家族から広報への写真の掲載の同意も頂いています。ご利用者への声かけや対応も、管理者が気付いた場面で指導しています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・場面場面で、自己決定できるような働きかけに努めているが、定期的に職員間での意識の再確認の機会を設けていきたい。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・決まりごとがある中でも、できる範囲内でペースを大切に支援が出来るように努力している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・身だしなみについては、可能な限り支援させていただいているが、おしゃれに関しては、十分な支援ができていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・それぞれの方のできる事や役割分担を意識して準備や片付けに参加していただいている。	食事準備や片付けは出来る能力に応じ手伝ってもらっています。畑で育てた野菜の収穫と一緒に楽しんだり、外食の機会を設けるなどして食事を楽しんでもらえるよう取り組んでいます。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・既往歴や家族からの情報や本人の状態から、その方に合った支援となるように努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・必要に応じて職員が介入させていただくようにしている。自力でされる方は本人にお任せしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・最小限の失敗にとどめることに向けて、トイレ内での排泄の支援はしているが、改善や自立にはなかなかつながっていない。	必要に応じて排泄チェックを行い、一人ひとりの排泄パターンを把握しています。ご利用者の行動や仕草などを観察しながら個々に合わせた誘導をしています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・運動や水分摂取、バランスの取れた食事提供に努めているが、排便状況が把握できていない方もある。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・一日の中で入浴時間は決まってしまう。デイサービスも実施しており、時間が優先されてしまっている。入浴時間はゆったりと入っていただけるように努めている。	一人ひとりの好みに応じた湯温や入浴方法に合わせ入浴していただいております。基本的には1日おきに入浴していただいておりますが、入浴を嫌がる利用者には声かけのタイミングを模索するなど状況に合わせた対応をしています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・状況に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・個々の薬の説明書をファイルに閉じ、確認できるようにしているが、必要に応じて確認するのみである。薬について理解しておくために定期的に確認の場を持つ必要がある。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ケアプランを元に、各担当が中心になって、その方に合った支援が出来るように努めているが、不十分な部分もあり、今後取り組んで行く努力も必要である。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・月に一度程度、全員対象の外出計画を立てて実施したり、天気によって、構内の散歩に出かける機会は持っているが、希望に沿った外出はなかなかできていない現状である。	日常的には敷地内に散歩に行く程度ですが、花見の時期には高田公園に行くなど、月に1回は外出を伴う行事も計画しています。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・外出行事の際に小遣いを用意し、買い物を楽しむ機会を持っていただけるようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・希望により支援しているが数名のみである。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居心地の良い空間作りに向けて、工夫して行く努力は必要である。	共有スペースは天井は高く、とてもゆったりとしています。季節感のある飾りつけやご利用者の作品も飾られております。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・狭い共有空間ではあるが、思い思いに過ごされていたり、配慮はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・写真や家具等の持ち込みあり、それぞれに合った環境作りに努めている。	ご利用者の馴染みの物を持ってきて頂くように説明しており、ご利用者が居心地よく過ごせるようにしていただいております。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・できるだけ自立した生活ができるように利用者個々に合わせた工夫ができるように探りながら環境作りに努めている。		